

【引受保険会社】



保証金額付特別勘定年金特約(定期Ⅱ型)付変額個人年金保険(06)



〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

お問合せ先:カスタマーサービスセンター
Tel 0120-375-193

アクサ生命ホームページ
<http://www.axa.co.jp/>

特別勘定（世界分散型30AL（503））

四半期運用レポート

2016年7月～2016年9月

【利用する投資信託の委託会社】

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社は、米国ステート・ストリート銀行の資産運用部門(SSGA)の東京拠点です。1998年10月1日に業務を開始、投資信託・投資顧問業務を幅広く展開しています。ステート・ストリート銀行は、1792年に米国ボストンに設立された歴史と伝統を有する金融機関であり、卓越した財務内容と高い信用力を有しています。SSGAは、最先端テクノロジーと高度な運用技術を駆使したクオンツ運用に定評があり、特にインデックス運用では世界有数の資産運用会社として評価されています。

- ・ 当保険商品は特別勘定で運用を行います。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・ 当資料は、特別勘定の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・ 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・ 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・ 商品内容の詳細については「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」等をあわせてご覧ください。
- ・ 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

変額個人年金保険 (06)

特別勘定の四半期運用レポート (2016年7月～2016年9月)

・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境

【日本株式市場】

日本株式市場は、TOPIX(東証株価指数)が前期末比+6.18%の1,322.78ポイントで終了しました。

7月から8月にかけて、米雇用統計が市場予想を上回ったことなどを背景に大幅に上昇する一方で、FRB(米連邦準備制度理事会)副議長の発言を受けて早期の追加利上げが意識され、下落するなど揉み合いで推移しました。9月以降も、米景気の先行き不透明感などから下落する一方、日銀の「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」導入発表などから上昇するなど、揉み合いで推移しました。

業種別(東証33業種)では、主要企業の業績好転期待から「その他製品」(前期末比+27.85%)が最も上昇する一方、原油高による採算悪化が懸念された「空運業」(前期末比△8.20%)が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は、7月から8月にかけて、米雇用統計が市場予想を上回ったことなどを背景に大幅に上昇した後は、利益確定目的の売りや、米追加利上げが意識されたことなどから、小幅に下落しました。9月以降は原油増産凍結合意への期待の低下や、米利上げに対する警戒感が再び高まったことなどから下落しましたが、FOMC(米連邦公開市場委員会)で追加利上げが見送られたことなどをを受けて、上昇しました。期を通してみると、NYダウは、前期末比+2.11%の18,308.15ドルで終了しました。

欧州株式市場は、7月から8月にかけて、イタリアの銀行の不良債権に対する懸念などから銀行株が急落し、下落する場面もありましたが、英中央銀行が金融緩和策を決定したことなどにより、上昇しました。9月以降は、揉み合いでの推移となり、FOMCの追加利上げ見送りなどを好感し、上昇する場面もありましたが、ECB(欧州中央銀行)理事会で追加金融緩和が見送られたことや、ドイツ大手銀行の信用不安などを背景に下落しました。期を通して見ると、市場別騰落率は、英FTSE100は前期末比+6.07%、仏CAC40は同+4.97%、独DAXは同+8.58%となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、7月から8月にかけて、財務相が40年国債増発の検討を表明したことなどにより、金利は大幅に上昇(価格は下落)した後は、揉み合いながら小幅に上昇しました。9月以降は、日銀が「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の導入を発表すると、一時上昇しましたが、日銀の黒田総裁の講演で、マイナス金利の深堀りについて言及されたことなどをを受けて、金利は低下(価格は上昇)しました。新発10年国債利回りは△0.085%となりました(前期末は△0.230%)。

日銀が一部当座預金にマイナス金利を適用していることから、無担保コール翌日物金利は概ね△0.07～△0.03%近辺で推移しました。

【外国債券市場】

米国債券市場は、7月から8月にかけて、英国のEU(欧州連合)離脱を巡る世界経済の先行き不透明感などを背景に金利は低下(価格は上昇)した後は、上昇に転じましたが、その後は米国の利上げ観測などから小幅に揉み合いながら推移しました。9月以降は、ボストン連銀総裁の利上げを支持するとの発言などをを受けて上昇しましたが、FOMCで追加利上げが見送られたことなどから、低下しました。米10年国債利回りは1.594%となりました(前期末は1.470%)。

欧州債券市場は、7月から8月にかけて、欧州の銀行に対する信用力懸念などを背景に、金利は低下(価格は上昇)しましたが、英中央銀行が市場予想に反して利下げを見送ったことなどから、上昇(価格は下落)した後は、小幅に揉み合いながら推移しました。9月以降は、ECBが追加金融緩和を見送ったことなどをを受けて上昇しましたが、ドイツ大手銀行の信用不安の影響などから低下しました。独10年国債利回りは△0.119%となりました(前期末は△0.130%)。

FRB(米連邦準備制度理事会)は、FF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標を据え置き、年0.25～0.50%を維持しました。ECB(欧州中央銀行)は政策金利を据え置き、年0.00%を維持しました。

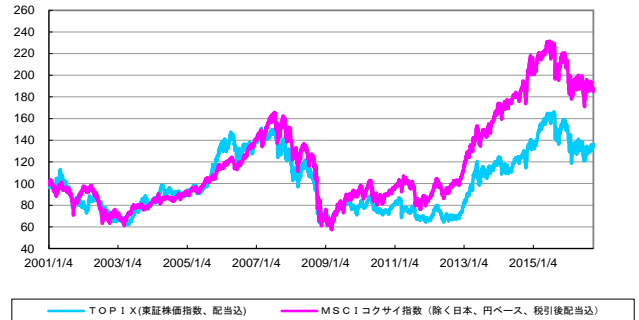
【外国為替市場】

米ドル/円相場は、前期末比1円79銭円高ドル安の1ドル=101円12銭となりました。7月から8月にかけて、日銀が国債買入などで財政資金を供給する「ヘリコプターマネー」への思惑などを背景に、円安が加速した後、米国の早期利上げ観測の後退などから一転円高が進行しましたが、その後は揉み合いで推移しました。9月以降は、市場予想を上回る米経済指標や、米早期利上げ観測が高まるなど、再び揉み合いで推移した後、FOMCが追加利上げを見送ったことなどから、円高が進行しました。

ユーロ/円相場は、前期末比1円33銭円高ユーロ安の1ユーロ=113円36銭となりました。7月から8月にかけて、英中央銀行が利下げを見送ったことなどを背景に円安が加速した後、日銀の追加金融緩和の内容が市場の期待を下回ったことなどをを受けて、円高が進行しましたが、その後は揉み合いで推移しました。9月以降は、ECBが追加金融緩和を見送ったことなどを背景に円安に振れる一方、その後円が買い戻されるなど、揉み合いで推移した後、FOMCが追加利上げを見送ったことなどから、円高が進行しました。

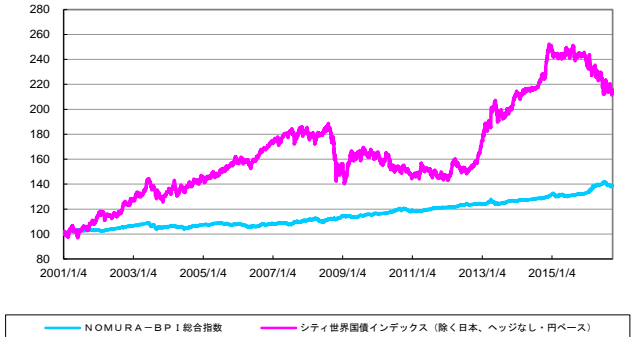
日本と外国の株式市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

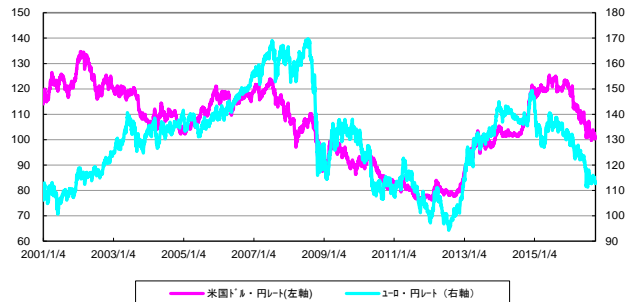


日本と外国の債券市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所:株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

変額個人年金保険 (06)

特別勘定の四半期運用レポート (2016年7月～2016年9月)

・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の種類と運用方針について

特別勘定名	利用する投資信託の運用方針
世界分散型30AL(503)	<ul style="list-style-type: none"> ● 当ファンドは、日本株式インデックス・マザーファンド受益証券15%、日本債券インデックス・マザーファンド受益証券35%、外国株式インデックス・オープン・マザーファンド受益証券15%、外国債券インデックス・マザー・ファンド受益証券35%*を基本配分比率とし、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。 * 当ファンドは、外国債券インデックス・マザー・ファンド受益証券の組入れに伴う実質的な組入外貨建資産の35%のうち20%部分について、原則として為替ヘッジを行います。 ● 各受益証券の時価変動などに伴う基本配分比率の変化に関しては、資産ごとに一定の変動幅を設け調整を行います。 ● 当ファンドの主なリスク ・価格変動リスク ・信用リスク ・カントリーリスク ・為替リスク ● 受益証券の配分に代えて、トータル・リターン・スワップ取引を利用する場合があります。(詳しくは、P.4をご覧ください)
利用する投資信託	
4資産バランス30VA 〈適格機関投資家限定〉	

特別勘定の運用状況

■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定の設定日を100.00として計算しています。

特別勘定のユニットプライス		騰落率 (%)	
2016年9月末	101.22	過去1ヶ月	▲0.80%
2016年8月末	102.03	過去3ヶ月	0.29%
2016年7月末	102.63	過去6ヶ月	▲2.63%
2016年6月末	100.92	過去1年	▲2.41%
2016年5月末	104.07	過去3年	6.78%
2016年4月末	103.27	設定来	1.22%

※ 実際のユニットプライスの小数点第三位を四捨五入して表示しています。

※ 騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。

※ ユニットプライスは、弊社ホームページにて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の内訳

項目	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	148,308	1.4%
その他有価証券	10,373,409	98.6%
合計	10,521,717	100.0%

※ 各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも

「その他有価証券」の項目に含まれています。

※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

変額個人年金保険(06) 特別勘定の四半期運用レポート (2016年7月～2016年9月)

・投資信託の運用状況は、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

4資産バランス30VA<適格機関投資家限定>の運用状況

【運用方針】

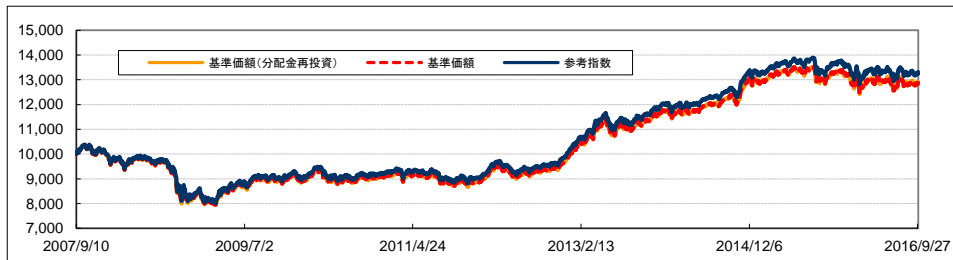
当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行い、実質的に国内外の株式および公社債等に投資を行います。
当ファンドが主要投資対象とする各マザーファンドは、それぞれ以下のベンチマーク(運用成果を判断するうえで基準とする指数)と連動する投資成果を目標とする運用を行います。

マザーファンド受益証券の配分に代えて、各マザーファンドを基本配分比率で合成した指数(ただし外国債券の為替ヘッジを行う部分については円ヘッジベース)のリターンと短期金利レートの金利を一定の条件のもとに交換するトータル・リターン・スワップ取引を利用する場合があります。

■各マザーファンドとベンチマーク

利用する投資信託名	基本資産配分比率	マザーファンド受益証券	委託会社	ベンチマーク	参照ページ
4資産バランス30VA <適格機関投資家限定>	日本株式	15.0%	ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社	TOPIX(東証株価指数配当込み)	5ページ
	日本債券	35.0%		NOMURA-BPI総合指数	5ページ
	外国株式	15.0%		MSCIコクサイ・インデックス(円ベース)	5ページ
	外国債券(ヘッジあり)	20.0%		シティ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース) *「4資産バランス30VA<適格機関投資家限定>」は、外国債券インデックス・マザー・ファンド受益証券の組入れに伴う実質的な組入れ外貨建資産の35%のうち20%部分について、原則として為替ヘッジを行いますので、当該部分のベンチマークは「シティ世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)」となります。	5ページ
	外国債券(ヘッジなし)	15.0%			

■基準価額の推移



- ※ グラフは、4資産バランス30VA<適格機関投資家限定>の設定日(2007年9月10日)を10,000として指数化しています。
- ※ 基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬(純資産総額に対し、年率0.162%(税抜0.15%))控除後の値です。
- ※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- ※ 参考指数は、TOPIX(東証株価指数配当込み)15%、NOMURA-BPI総合指数35%、MSCIコクサイ・インデックス(円ベース)15%、シティ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)15%、およびシティ世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)20%で組み合わせた合成指数です。

■概況

	当月末	前月末	前月末比
基準価額	12,855円	12,935円	▲80円
純資産総額(百万円)	10,373	10,581	▲208

■騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	▲0.62%	0.89%	▲1.50%	▲0.12%	14.58%	28.55%
参考指数	▲0.60%	0.93%	▲1.36%	0.30%	15.60%	32.56%
差	▲0.02%	▲0.05%	▲0.14%	▲0.42%	▲1.02%	▲4.01%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。
また、ファンドの騰落率と実際の投資者利回りとは異なります。

■資産構成

金融派生商品を使用する場合、短期金融資産の投資比率が高くなる場合があります。

	基本資産配分比率	ファンドの資産構成
日本株式	15.00%	5.55%
日本債券	35.00%	13.22%
外国株式	15.00%	5.44%
外国債券(為替ヘッジあり)	20.00%	7.36%
外国債券(為替ヘッジなし)	15.00%	5.51%
短期金融資産	0.00%	62.91%
合計	100.00%	100.00%

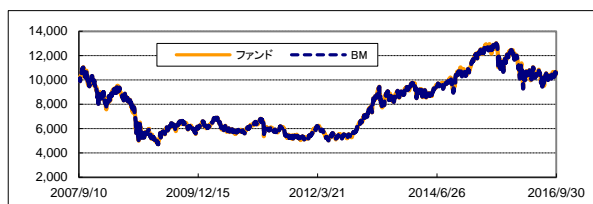
- ※ ファンドの資産構成は、純資産総額に対する比率です。
- ※ 計理処理の仕組み上、直近の追加設定分が反映されないことなどにより「短期金融資産」の値がマイナスで表示されることがあります。
- ※ REITの組入れがある場合、REITは株式に含めて表示しています。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

変額個人年金保険 (06) 特別勘定の四半期運用レポート (2016年7月～2016年9月)

《参考情報》日本株式インデックス・マザーファンド

■基準価額の推移



※ ベンチマーク (BM) : TOPIX (東証株価指数配当込み)
※ 2007年9月10日を10,000として指数化しています。

■概況

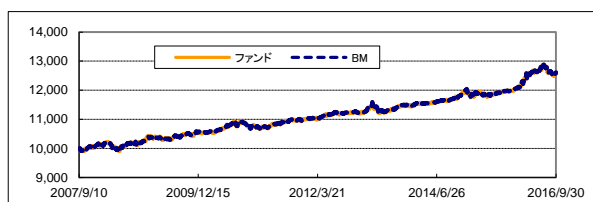
	当月末
純資産総額(百万円)	109,883

■騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
ファンド	0.32%	7.10%	▲0.78%	▲4.20%	17.82%	5.14%
ベンチマーク	0.34%	7.13%	▲0.79%	▲4.15%	17.77%	4.91%
差	▲0.02%	▲0.03%	0.01%	▲0.05%	0.05%	0.24%

《参考情報》日本債券インデックス・マザーファンド

■基準価額の推移



※ ベンチマーク (BM) : NOMURA-BPI総合指数
※ 2007年9月10日を10,000として指数化しています。

■概況

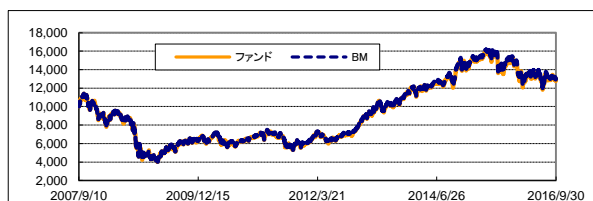
	当月末
純資産総額(百万円)	125,784

■騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
ファンド	0.07%	▲1.73%	0.71%	5.56%	10.37%	26.02%
ベンチマーク	0.07%	▲1.75%	0.68%	5.55%	10.31%	26.04%
差	0.00%	0.01%	0.03%	0.01%	0.06%	▲0.02%

《参考情報》外国株式インデックス・オープン・マザーファンド

■基準価額の推移



※ ベンチマーク (BM) : MSCIコクサイ・インデックス(円ベース)
※ 2007年9月10日を10,000として指数化しています。

■概況

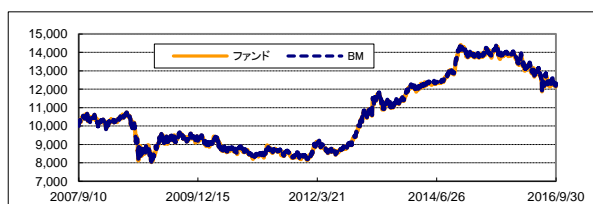
	当月末
純資産総額(百万円)	126,211

■騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
ファンド	▲2.38%	3.52%	▲5.70%	▲4.46%	23.87%	29.29%
ベンチマーク	▲2.36%	3.54%	▲5.62%	▲4.35%	24.29%	30.88%
差	▲0.01%	▲0.02%	▲0.08%	▲0.11%	▲0.42%	▲1.59%

《参考情報》外国債券インデックス・マザー・ファンド

■基準価額の推移



※ ベンチマーク (BM) : シティ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)
※ 2007年9月10日を10,000として指数化しています。

■概況

	当月末
純資産総額(百万円)	149,938

■騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
ファンド	▲1.91%	▲1.01%	▲8.65%	▲11.66%	8.77%	22.35%
ベンチマーク	▲1.90%	▲1.02%	▲8.66%	▲11.63%	8.89%	22.85%
差	▲0.01%	0.01%	0.01%	▲0.03%	▲0.12%	▲0.50%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

変額個人年金保険(06)の投資リスク及び諸費用について

【投資リスクについて】

この保険は積立金額および年金額等が特別勘定資産の運用実績に応じて変動(増減)するしくみの変額個人年金保険です。特別勘定資産の運用は、投資信託を利用して国内外の株式・公社債等で行なっており、株式および公社債の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあります。特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払いもどし金額等が一時払保険料等を下回る場合があります。

【諸費用について】

この商品にかかる費用の合計額は、下記の各費用の合計額となります。

〈ご契約時〉

項目	費用	ご負担いただく時期
契約初期費	一時払保険料に対して 5.0%	特別勘定に繰り入れる際に、一時払保険料から控除します。

〈積立期間中および保証金額付特別勘定年金(定期)支払期間中〉

項目	費用	ご負担いただく時期
保険契約関係費	特別勘定の積立金額に対して 年率2.3%	積立金額に対して左記割合(率)を乗じた金額の1/365を、毎日、特別勘定の積立金額から控除します。
運用関係費	投資信託の純資産総額に対して 年率0.162%程度 (税抜:0.15%程度) ^{※1}	特別勘定にて利用する投資信託における純資産総額に対して左記割合(率)を乗じた金額の1/365を、毎日、投資信託の純資産総額から控除します。

※1 運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。

信託報酬の他、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料及び消費税等の税金等の諸費用がかかりますが、これらの諸費用は運用資産額や取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。また、特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。

したがって、お客さまはこれらの諸費用を間接的に負担することとなります。

これらの運用関係費は、特別勘定の廃止もしくは統合・運用協力会社の変更・運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

〈一般勘定で運用する年金の支払期間中〉

「年金払特約(06)」により年金をお受け取りいただく場合を含みます。

項目	費用	ご負担いただく時期
年金管理費	年金額に対して 1.0% ^{※2}	年金支払日に責任準備金から控除します。

※2 年金管理費は、将来変更される可能性があります。

【その他の留意事項について】

■受取総額保証金額(定期型)

受取総額保証金額の最低保証は、据置期間(5年~17年)と特別勘定年金受取期間(3年~15年)の合計期間が20年である場合に限られます。積立期間中にご契約を解約される場合、もしくは年金受取期間中に積立金額を一括でお受け取りいただく場合には、お受け取りになる金額が一時払保険料を下回る場合があります。